



NO.397

R2年8月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

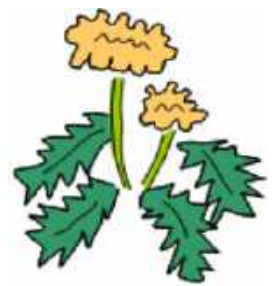
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



海のむこうで…

施設長 木下昭一

このところ新型コロナウイルス又関連の内容が続いたので、今回は少し目先を変えて、前々から書きたいと思っていた人物に焦点を当ててみたいと思います。とは言え、もう半年以上も前の事になるのですが…。

その訃報は突然に舞い込んできました。2019年12月4日の事でした。もしかしたらこの日付けに既にピンときた人もいるかもしれません。が、恥ずかしい話、私自身はそういう活動をしている九州人がいる事を知りませんでした。その人は、中村哲氏で福岡市出身の脳神経内科の医師です。国内の病院に勤務したのち、1984年日本キリスト教海外医療協力隊の派遣でパキスタンのペシャワールに赴任して、20年以上に亘ってハンセ

ン病を中心とする医療活動に従事していたものの、パキスタン国内では政府の圧力で活動が困難と判断し、以後はアフガニスタンに拠点を移して医療支援を行う中で、「医療活動だけでは命は救えない」「水があれば多くの病気と難民問題を解決出来る」事を悟り、以後は水を得るための井戸を掘ったり、干上がった広大な土地に水を引くための灌漑事業に取り組み、クナル川からガンベリー砂漠までの総延長25kmを超える用水路を現地の人達と共に完成させました。彼の凄さはアイディアを出すだけでなく、その資金の調達のために日本に戻って資金提供者を募ったり、講演会を行って得た資金を拠出したり…に留まらず、独学で自ら堰を引く為の図面を引き、しかも重機も扱って工事の先頭に立って指揮する、という

何役もこなしていました。中村氏の功績はTVや色々なメディアで取り上げられているので、これ以上は触れませんが、用水路の建設によって10万人もの農民が暮らしていける基盤を作った事で、飢えから人々を救い、争い事が減り、彼の全ての功績がアフガニスタンの人々から受け入れられ、現地の人達からカカ・ムラド(ハナカムラのおじさん)と親しみを込めて呼ばれていたという話も、微笑ましく思えます。

彼が生前、アフガニスタンでの活動で「向こうに行って、9条がバックボーンとして僕らの活動を支えてくれてる。これが我々を守ってきてくれたんだな、という実感がありますよ。身体で感じた想いですよ。武器など絶対に使用しないで、平和を具現化する。それが具体的な形として存在してくれているの

が日本という国の平和憲法、9条ですよ。それを現地の人達も解ってくれているんです。だから政府側も反政府側も、タリバンだって我々には手を出さない。むしろ守ってくれているんです。9条があるから、海外ではこれまで絶対に銃を撃たなかった日本。それが本当の強みなんですよ。」と語っています。

日本では、「平和な事が当たり前」と思ってしまうですが、前出の彼の発言に触れ、「本当の日本の良さ」や「変えるべきものと、変えざるべきもの」を改めてしっかりと考え見つめ直しつつ、アフガニスタンの国を挙げて彼の死を悼み、追悼式典で大統領自ら棺を担いで送り出してもらった誇り高き日本人が居た事、「寡黙で男らしく、優しい九州男児を絵に描いたような男」の壮大・壮絶な人生の幕引きがあった事を、しっかりと心に刻み、留めておきたいと思

います。



8月



「突破！」

今年度に入り、コロナウイルス、大雨による被害と暗いニュースが続いていますが、ここで1つ、1班から明るいニュースを届けたいと思います。1班は、2社より作業（仕事）を受注し、取り組んでいます。昨年度の作業収入が、以前より目標としていた「大台」に乗りました。年々、右肩上がりではありましたが、目標には届きませんでした。受注先を増やす、変えることはせず、目標に到達した背景には「信頼の獲得」が挙げられます。信頼を得る為に、先ず不良製品を出さないこと、柔軟な姿勢で受注することを心掛けてきました。信頼の表れとして、日々増えていく作業内容、作業量に対しても、皆の頑張りや成長で応えることができました。また、納品時に受注先の担当者や良好な関係を築いてくれたスタッフなど、班全体の頑張りや成果であると捉えています。今後も次なる目標を掲げ、歩み続けます。

主任 本田 誠

「初めての福祉」

令和元年10月に入職いたしました。前職では医療事務をしており、8年間勤めさせて頂きました。福祉の現場は初めてのなのですが、前職の経験を生かして利用者の皆さんの力になれる様に頑張りたいと思います。

6月10日に三気マルシェがありました。三気の里のスタッフが音楽を奏で、一緒に歌ったり、手を叩いて共感したり、踊ったりする方もいらっしゃいました。以前の職場ではパソコンの前で仕事をする事が多く現場に入る事がありませんでしたので、とても新鮮で清々しい気持ちになりました。担当させて頂いている、Kさんもずっと笑顔だったので喜びと、これからのやりがいを感じました。先日、4か月ぶりの帰宅が再開になりました。皆さんの喜びようを見ると、本当に元気がもらえます。早くコロナウイルスが終息し、外泊や、レクリエーション、給料外出などが普段通りにできる様になればと願うばかりです。

支援員 早瀬 寛

「のん気！こん気！げん気！」

三気の里に入社して半年が経ったものの、まだまだ勉強中の私です。よくFさんと関わらせていただくことが多いのですが、ある時からFさんが作業に行く時に、同じ場所で「のん気！こん気！げん気！」と掛け声をするようになりました。のん気、こん気、げん気は三気の里の名前の由来になった言葉です。いつも元気なFさんですが、時には気分が落ち込んだり、怒ったりすることがあります。そんな時でも作業に行く時に、その場所に来ると、笑顔いっぱい「のん気！こん気！げん気！」と掛け声を言われます。それにより仕事モードに切り替わられ、野菜の袋詰め、ドリップコーヒーのパック作りなど取り組まれます。そんなFさんを見るのが私は大好きですし、色々なことを学ばせていただいているように感じます。これから梅雨が明けると暑さが厳しくなると思うので、体調管理をしっかり行って、元気に過ごしてもらえようように支援していきたいと思っています。

支援員 岩下 恵子



「再会」

初めまして。（一部の方々にはご無沙汰しております。）
4月から三気の里に入職した高橋と申します。（私は以前、15年程三気の里で働いており、5年振りに4班所属の生活支援員として復職させていただきました。オールドルーキーですが改めてよろしくお願い致します。）

4月の話になりますが、復職に際して、5年間ものブランクを利用者さんが受け入れてくれるか一抹の不安を感じながらの再会でした。しかしそんな不安をよそに4班の皆さんの笑顔がすぐにその緊張を解いてくれたのがとても印象に残っています。
前職では介護予防事業や認知症施策等を中心に担ってきたので、特に高齢化が顕著な4班の皆さんに、これまでの経験を少しずつ還元していければと思います。

支援員 高橋 一精



「お久しぶりです！」

コロナ対策で通所利用の方々と園内利用の方々とで別々に作業をしていましたが、7月6日から元の体制に戻り、約4か月振りに班での活動を一緒にすることができました。園内では「〇〇さん久しぶり」という嬉しそうな会話が聞こえてきます。

5班では半数の方が家から通われています。その為、ほとんどの方と久しぶりに顔を合わせ「元気でしたか？」と尋ねたり、たくさんのコミュニケーションを取ったりしながらスタッフ、利用者共に笑顔が溢れており、一緒に作業ができる喜びを感じました。

一方で東京の方では100人を超える感染者がまた出始めています。元の生活に戻ってきていますが、まだまだ油断予断を許さない状況です。気を抜かないよう感染対策をし、コロナウイルスが終息していくことを願っています。

支援員 西本 綾子



「GHバックアップ」

今年の3月からコロナウイルスの影響で帰宅が中止になり、それまでは毎週末に帰宅されたり、2週間に一度帰宅されたりしていた利用者が週末もGHで生活をされていました。また、6月からは月に一度の帰宅が開始されました。そのような状況の中で、みんなが楽しみとなるような余暇支援にも協力できるようにGHバックアップとして心掛けています。外出などもできない状況の中でお弁当を購入したり、おやつ作りをしたりしてきました。今後は、休日日課で買い物や、外食などで気分転換を図り、利用者が困っていることがないかなどを話し合いの部屋で意見を伺い、今の利用者の状況が把握できるように取り組んでいます。

これからも、コロナウイルスの感染の状況を観て、ソーシャルディスタンスを図りながら元の生活に近い状態に戻れるとともに、利用者が生活に充実感が得られるような支援をGHバックアップとして取り組んでいきたいと思えます。

支援員 中村 圭助



夏祭り

支援員 友尻 陽也

7月16日に毎年恒例の夏祭りを開催しました。この時期にイベントをするにあたって密にならないようにするにはどうすれば良いかを実行委員で話し合い、「現在(いま)しかできない夏祭り」を目指し、園内の各フロアで出店を出し、利用者さんに回ってもらおうという方法で行いました。当日は雨も降らず気持ちの良い風が吹くなかで開催することができました。今年も利用者さん、スタッフともに浴衣や甚平、アロハシャツに身を包み参加しました。食事はから揚げに焼きそば、フランクフルトなどを美味しそうに食べられていました。かき氷にゲーム、盆踊りのほか、新しい取り組みとしてお化け屋敷や花火のコーナーを設けました。お化け屋敷ではスタッフの服を掴み、ドキドキしながら進まれる方もいました。花火は手持ち花火を持ってもらい、火をつけた瞬間に手を離される方もいましたが、スタッフが持っている花火を見ながら楽しまれています。来年も利用者さんの体調に配慮しつつ、楽しい夏

祭りを開催できればと考えています。



看護師便り

看護師 小崎 栄之

記録的暖冬だったため、今年の夏は、平年以上の暑さとなっています。猛暑を乗り切るために、常に熱中症対策に注意をむけて

おくことが大切です。昨年5月から9月の間に、全国で7万人超の方が熱中症で救急搬送されました。今年は、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響で、4月、5月に汗をかく機会が少なかつたため、暑熱順化ができていないまま夏を迎えました。また、運動をしなかったことによる筋肉量の減少で、脱水状態になりやすい方々が増えています。今年の夏は、熱中症と新型コロナウイルスの予防が必要です。

熱中症と新型コロナウイルスの症状は、倦怠感、頭痛、筋肉痛、発熱、味覚嗅覚障害など似ており、救急搬送の際に判別が難しく、それぞれの治療が遅れてしまうおそれがあります。しかし、熱中症は新型コロナウイルスと違い確実に予防できます。対策としては以下の6項目です。

1. 3食きちんと食べる。
 2. のどが渇く前のこまめな水分摂取。
 3. 冷房時も換気する。
 4. 人と人との距離が十分にとれる場所ではマスクをはずす。
 5. だるさ、暑さを感じたら、日陰など涼しい所で休憩する。
 6. 経口補水液の買い置き。
- 三気の里におきましては、例年以上に熱中症及び新型コロナウイルス感染防止対策を万全にし、暑い夏を乗り切りたいと思います。

課長だより

「私たちは何を学ぶのだろう」

業務課長 松本慎太郎

新型コロナウイルスにより、福祉施設は厳しい状況に置かれることになったかと思えます。通所系の事業所は運営できなくなったり、入所系は施設の中に籠ることを余儀なくされたり、施設職員は感染防止のため一般の人より行動の制限がより課せられていたり、様々な影響が出ています。いつも何かあると、そこから学ぶ姿勢が求められるかと思いますが、今回のコロナ関連で、私たちは何を学ぶことになるのでしょうか。まだまだ途中?初期?の段階で、精査できていないのですが、あまりにも大きな犠牲を伴っているこの状況において、残された私たちはそれ相應に何かを学ぼうとしなければならぬことは確かだと思っています。感染対策、収入確保、心のケア、資質向上、人材確保、地域、IT技術、生活様式などのキーワードを中心に、今の世の中の動向を注視し、先を読み、自助・互助の中で、生き残れる施設運営ができる努力をしていければと思います。

「生きがい」

主任 佐藤和也

利用者Aさんは行事や外出といった自分が楽しみにしているものごとの前後に不安定になってしまいます。行事や外出が気になり、夜眠れずスタッフには「〇〇が気になって眠れない」等、近所の人にも聞こえるくらい大きな声で叫びます。予定が気になって不安定になるならと思い、スケジュールを試行錯誤し、本人に合ったものを模索しながら渡してきましたが、スタッフに対する確認行動がなくなることとはなく、大きな声を出す行為は止まりませんでした。

三気の里は自閉症のある利用者が殆どですので、その大きな声に反応して不穏になる方も多々いました。Aさんの暮らしの安定の為に、一緒に暮らすみんなの為にどうか大きな声を出すことなく落ち着いて過ごしてもらえないか考えました。

Aさんの行動を分析していくと、行事や外出が気になるというきっかけはあるものの、見通しが持てるようにスケジュールを渡しても大きな声出しが止まらない。その中でもある程度決まったスタッフに大声を出していることもあり、大きな声を出すという行動の機能はそのスタッフに構って欲しいという注目行動である可能性が高いと仮説を立てました。大きな声を出すことが注目行動であるならば、スケジュールの内容が大きな声を出さないきっかけにはなりにくい、また、気になるスタッフとの接触を避けるということ等になるべく避けた方が良さそう（Aさんが苦手、嫌いなスタッフでないから）と思いました。ただAさんが楽しみにしていることを楽しみに待てないということが原因であることには変わりません。その為、楽しみを楽しみに待つ（過ごす）ことでさらに楽しみが増えるように支援してあげることにしました。

望ましい行動は大きな声を出すことなく過ごすごとで、それ

が出来たらAさんが望む楽しみを獲得できる。Aさんに取り組みの説明と了解（家族にも）、そして楽しみにしているものごとを事前に聞き取りました。

初めは即時評価（1日単位）で行い、楽しみもチョコレート1個からはじめ、1週間単位で取り組みの評価を行い、楽しみも1日毎に行っていたものを2日、3日、1週間と伸ばしていきました。獲得のタイミングが長くなるほどAさんの楽しみも増えているものを強化子としていき、今では約2週間程度は落ち着いて過ごすごとができています。大きな声を出す行動は楽しみと注目行動である為、物だけが強化子とならないよう、上手く過ごせた日は「よく頑張りましたね」等の言葉かけをいつも以上に行うよう心掛けて、良い関わり作りによって落ち着いて過ごしてもらえといたいと思っております。

新型コロナで自粛の動きがある中でも、比較的継続して落ち着いて過ごすごとができています。はじめはチョコレート1個

だった楽しみも「お化粧をすること」や「洋服を買うこと」等、一人の女性として普通に行う楽しみを選ぶようになった。化粧やオシャレをしてこなかったわけではないのですが、これまでは気になるものごとに関わらず。また、大きな声をだして注目を集めようとしていた行動も、「昨日は落ち着いて過ごせました」と大きな声を出さずに関りを求めるようにもなりました。

一人の女性として、一人の間としてまだまだ楽しみたいところが多々あると思います。気持ちが落ち着いていき、生きがいを糧に安定して暮らしていきたいに私たちは工夫して支援しました。



8月スケジュール

三気の里

3 (月) 訪問理容サービス

4 (火) 嘱託医来診

6 (木) ローソン移動販売

8 (土) ※帰宅は中止です

18 (火) わっふるステップアップ講座

BeTREE

4 (火) 避難訓練

BeTREE

<営業時間>

8:00~18:00

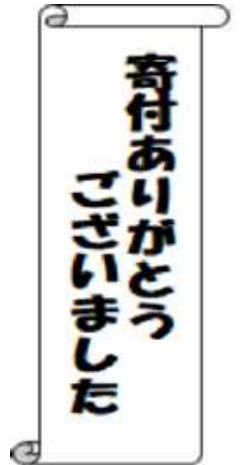


betree314

【その他物品】
 金森 保 様 井上 優 様
 道上 進 様 田中 哲夫 様
 牛島 智子 様 柴田 精三 様
 森川 琇介 様 田中 満子 様
 千田 英文 様 赤星 央子 様
 吉田 和信 様 坂田 美和 様
 前田 真澄 様 岩切 美佐子 様
 山本 住建 様 河内 研究所 様

【マスク他衛生用品】
 東坂 富士代 様 藤原 芙佐子 様
 道上 進 様
 ファミリー 電器 様
 熊本 県 様 厚生 労働 省 様
 ※順不同

米田 孝一 様 松村 俊介 様
 興呂 木克昭 様 井口 チズヨ 様
 ライス センター 井口 様
 三気の里 家族 会 様
 ※順不同



森 裕三 様 森川 誠 様
 前田 克英 様 田中 基幹 様
 高千 穂翔 様
 ダイハツ 大津 様
 ※順不同



ダイハツ 大津 様
 よつば 調剤 薬局 様
 西日本 防災 システム 様
 シエイ アイシー 九州 南九州 支店 様
 ※順不同



コロナ禍でも
 楽しいひと時でした。